

武雄市の文化財

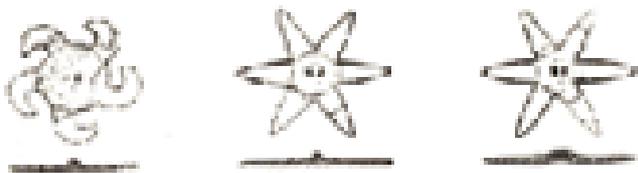
今回は、武雄市内にある指定文化財のうち、考古資料について紹介します。

指定をうけている考古資料として、県指定が9件、市指定が3件の計12件があります。この中から、特に「銅鉞」「東宮裾遺跡甕棺墓出土遺物」「おつほ山青銅経筒」を取り上げて説明します。

「銅鉞」は昭和52年に、佐賀県重要文化財に指定されました。玉江遺跡からの出土と考えられ、全長は80.4cm、重量1763g、中央付近で二つに折れ、小さな刃毀れがあることを除けば、ほぼ完全な形をしています。この銅鉞は中広形銅鉞と呼ばれる種類のものです。中広形・広形銅鉞などの祭器としては、これまでのところ佐賀平野最西端の出土例で



銅 鉞



東宮裾遺跡巴形銅器



おつほ山青銅経筒

あり、弥生時代の青銅器文化を知るうえで貴重な資料です。「東宮裾遺跡甕棺墓出土遺物」は巴形銅器3点、碧玉製管玉14点が、平成元年に佐賀県重要文化財に指定されています。この中でも巴形銅器が、珍しい形をしていることで有名です。2点はヒトデ形をしており、通常小さく

中央の座の部分が平になっています。もう1点は、右回りの通常の巴形をしているもの、ヒトデ形と同じように中央の座の部分が平です。巴形銅器は、盾などの飾り金具として使用されていたと考えられています。

「おつほ山青銅経筒」は昭和58年に、武雄市重要文化財に指定されました。経筒は、未法思想が流行した平安時代末期に作られ、経塚に埋められたものです。この経筒は、おつほ山神籠石の調査中に神社の石祠の前で発見されました。蓋付の青銅製で、高さ25cm、直径8cm。湿気を防ぐ木炭をつめた石積み施設の納められていました。

武雄市図書館

歴史資料館だより

武雄市図書館・歴史資料館 企画展

端午の節句 ハレの目ににぎわい

5月5日は端午の節句で、男子の健やかな成長をお祝いし、邪気を払い健康を祈願する日です。端午の節句には、厄除けのために菖蒲(しよぶ)や蓬(よもぎ)を軒に吊るしたり、菖蒲湯に入る風習があります。元々は宮廷での無病息災を願う行事でしたが、鎌倉時代から武家社会になるにつれ「菖蒲」と「尚武」をかけるようになり、また菖蒲の葉が剣を連想させることから、端午は男の子の節句とされるようになりました。今回の企画展では、端午の節句にちなみ、武者や金太郎等の色鮮やかで迫力ある絵が描かれた幟を中心に、人形や武雄鍋島家資料の武具、陣羽織等を展示します。

特に色彩豊かに雄々しさや勇ましさを表現した幟は必見ですので、ぜひご来場ください。

- 会期 平成19年4月14日(土)～5月27日(日)
 - 休館日 毎週月曜日、4/19(木)、4/29(日)、5/3(木)、5/4(金)、5/17(木)
 - 観覧料 無料
 - 会場 武雄市図書館・歴史資料館 企画展示室
- TEL0954-20-0222



平成19年2月30日現在

人の動き



総人口	52,325人
男	24,768人
女	27,557人
世帯数	16,795世帯

武雄町	16,036人(+9)	東川登町	2,681人(-41)
橋町	2,845人(-23)	西川登町	2,217人(-43)
橘日町	5,670人(-86)	山内町	9,605人(-83)
若木町	1,999人(-29)	北方町	8,544人(-101)
武内町	2,730人(-67)		()は平成18年2月30日との増減

〔お詫び〕 3月号の若木町増減が誤りでした。正(-23) 誤(-105)